

幼子とともに

2024 年度 1月号

はじめに

主の 2025 年がスタートしました。短い冬休みを終えた子どもたちは、心なしか、少し大きく成長したように感じました。三学期は、とても短い保育期間です。一日一日を大切に、丁寧に、子どもたちと共に歩んで参りたいと思います。どうぞ、今年も、よろしくお願い申し上げます。

ちよっとずつ

冬休みを終えて、久しぶりに幼稚園に帰って来た子どもたちの中には、急な行き渋り、夜更かし・夜泣きやチックが生じる場合があります。おかしいな？と感じる瞬間もあるかもしれません。しかし、これは決して、必ずしも、深刻な問題ではなく、場合によっては、子どもたちなりの助走期間であると言えます。子どもたちは、大人のように切り替えが素早くないため、様々な形で、葛藤をしたり、不安を払拭したりします。ですから、焦らず、ゆっくりで構いません。子どもたちが、周りの大人たちの優しい眼差しの中で、安心して、自分の力で心を切り替えていくのを信じて待つので良いのです。幼稚園に来る時、泣いていたお友達も、幼稚園での生活が始まり、遊びが始まってしまえば、ちよっとずつ、涙が拭われて、普段の生活に戻っていくことができます。だから、周りが焦らず、ぐっところえて、子どもの姿に寄り添いながら、優しくお声かけをしてあげてくださいね。

遊びが広がる三学期

三学期は、ある意味で、それぞれの学年の遊びの集大成とも言えるかもしれません。ちゅうりっぷ組さんは、とにかく先生との信頼関係が、豊かに構築された中での遊びです。お父さん・お母さんという限られた世界から、優しい先生と一緒に楽しい！そんな雰囲気が溢れています。三学期に入ると、徐々に、先生から離れて、お友達と一緒にの世界を楽しむ姿も見られます。年少さんは、自分の好きな遊びを見つけたり、先生を含みつつも、徐々に、友達と一緒に時間を満喫します。三学期に入ると、決まったお友達と遊びの約束をしている姿なども見られ、とても微笑ましい様子です。こうなっていくと、次の段階では、自分のやりたい気持ちと相手に譲れない気持ちがぶつかり合い、言い合ったり、葛藤する場面も増えてくるかもしれませんが、こういう心の動きが、人間をより豊かに成長させていくことでしょう。年中さんは、お友達と一緒にがうれしいという気持ちを溢れさせながら遊びます。お友達と一緒に、少しずつルールを覚えながらの遊びが発展していくのも、年中さんの三学期によく見られます。ルールの理解力に差は出てきますが、それよりもまず、一緒にやるのが純粋に楽しいという気持ちで溢れています。年長へとステップアップしていく過程期間ではありますが、遊びが、人間関係や成長の良い橋渡しとなっている様子を見ることもできます。砂場の砂を集めて、山をつくる単純な遊びですが、年中さんは、それを「富士山」に見立てて遊びます。つまり、遊びに明確な目的や意味を持たせて遊ぶわけです。言葉やイメージ力が育ちつつある姿がここにはあると言えるのです。

年長さんは、遊びに深みが生まれていきます。言葉や数量、化学や物理を自然に身に着け、それを活用しながら遊ぶ姿も見られます。違う物どうしを組み合わせ、一つの遊びを創り出したり、小さいお友達に合わせながら、力の緩急をつけて遊ぶ姿も見られます。また、この時期になると、座って静かに、遊ぶ姿も見られます。一人で遊び、友達とも遊び、先生を巻き込んで遊ぶ、そんな想像力豊かな姿に驚かされる日々です。このように学年や子どもによって、遊び方は変わりますが、共通していることは、「遊び」が人を豊かに成長させているということなのです。

他の園にはない

二学期の後半での出来事です。いつものように、園庭で子どもたちを見守ったり、子どもたちと遊んだりしていたある日、一人の子どもが、園庭で転びました。その様子を隣でみていたお友達は、その状況を、私に伝えるために、私のもとに走り寄って来たのですが、その道中、その子も転んでしまいました。幸い、柔らかい土の上でしたから、怪我にはつながりませんでした。「よく転ぶなぁ」と思って、改めて、園庭の全体を見渡してみると、園庭には、こどもたちが作った、大きな山や川が・・・園庭の端から端までを使って、一つの世界が作られていました！！沢山の子どもたちが、年齢を飛び越えて、園庭にスケールのでかい世界を造っていたのです。その翌日は土曜日でした。教会で大きなフェスが予定されており、関係者やスタッフは、園庭に車を停める予定となっていました。折角の作品を壊したくないなぁと思っていたら、なんと、恐らく、私と同じように感じてくれたのか、全ての車が、その作品を避けて車を停めてくださったのです！！(笑)私は、これまで、幼稚園に関わって 13 年、数々の幼稚園を見てきましたが、越谷幼稚園のような、ポコポコの園庭を一度も見ることがありません。全て整地されたものばかり！！でも、これが越谷幼稚園の一番良いところであり、世界で一番の自慢にしていよいところだと思います。子どもたちにとっては、園庭の土もまた、楽しい遊具なのです。この園庭が、子どもたちの衛生観念を育み、バランス力を養い、想像力を培い、他にもたくさんの思い出や経験を生み出すのだと言えます。先ほど、「壊したくないなぁ」と感じたことを記載しましたが、本当は、作って、壊す、ということも、大切なことであることも覚えておきたいものです。いずれにせよ、フェス関係者の車が、山に突撃したり、川の溝に落ちたりしなくてよかった～と感じた次第です！

園長 須賀 工

栄養士だより いけだかずみ先生

《よく噛むということは - - - ②》
それでは具体的に“よく噛む”ための工夫をご紹介します。
＊噛む回数を意識して食材や料理を選びます。
・パンや麺よりごはん、ごはんは白米より雑穀米や玄米
・ハンバーグより生姜焼き
・刺身はマグロより弾力のあるタコ
・食物繊維を多く含む根菜類や高野豆腐などの乾物を使った煮物
などは噛む回数が自然と増えますね。
＊切り方を工夫します。
・大根サラダは千切り大根よりさいの目切りにすると、噛む回数が増えるとともに素材一つ一つの食感の違いを感じることができる。
・きゅうりの和え物は、薄切りから乱切りにすると、食感や噛む音を楽しめる。
以前にもお話ししたのですが、「ありがとうございます」を 3 回唱えながら噛むと 3 0 回噛むことになります。一度試してみてください。

いけだかずみ